

農業工学でできそうなセクター間での連携

農業工学においてはそもそも公的な第一セクターと営利的な第二セクターの結びつきは強い。農業工学自体が土木工学を応用して農業の社会基盤を創り出すものであり、そのような共用の農業インフラは公的機関からの発注を農業コンサルなどが引き受けて行う場合が多い。

しかしながら、そのような現在ある典型的な事業を行う上で必要な連携だけではなく、農業工学の技術をもっと他の分野と掛けあわせておもしろいことができないのかを考えていきたい。

農業というのは基本人の生活の近くで行われる。そのため、農業のための農業土木インフラも人々の生活に近いところに存在することが多い。そう考えると、人に関わる分野として教育などの分野と結びつけることも可能ではないだろうか。例えば、農業用水路の地上部にコミュニティースペースのようなものを用意することなどが考えられる。そこは自然の近くで子どもたちが遊ぶ場所となり、自然に触れ合い学ぶ機会を与える。また、そこで利用されている農業土木技術が目に見える形で水路などを整備することが可能ならば、環境を保護する技術や自然保護の大切さを伝えることも可能である。さらに子どもたちだけでなく、そこに住む大人や若者たちが集まるコミュニケーションの場となれば、地域に関心を持ち、自分の住む土地を考えなおす機会を得られるのではないか。

また異なる視点から考えると、現在の先端 IT 技術などとの連携などで興味深い事業ができそうである。例えば、水質管理や生物情報などを各地の水圏の農業インフラに設置し自動で情報を集める仕組みを作れば、膨大なデータの収集が可能である。現在ではカメラで対象物を認識し分析する技術なども発達しているため、有意義なデータが得られそうである。また、現在でも導入されていることは考えられるが、飼育上や栽培上において IT 技術を駆使すれば、在庫管理や生育状況の管理をより効率的にすることが可能である。

農業と直接関係がない分野でも農業技術と掛け合わせることで新しい価値が生まれうると思う。